

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 13 日現在

機関番号：47605

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370334

研究課題名(和文) ジョージ・A・バーミンガムを中心に、北アイルランド小説の普遍的意義に関する研究

研究課題名(英文) A Study on Universal Significance of George A. Birmingham and Other Northern Irish Novelists

研究代表者

八幡 雅彦 (Yahata, Masahiko)

別府大学短期大学部・その他部局等・教授

研究者番号：50166568

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)： ジョージ・A・バーミンガムを中心に日本ではあまり読まれることのない北アイルランドの小説家たちの、時と国を超えた普遍的意義の解明を試みた。バーミンガムに関しては、ダグラス・ハイドとの書簡の調査をもとに、彼の初期の政治小説がアイルランドの歴史を変えてしまうほどの影響力を持っていたことを実証した。この騒動がもとでバーミンガムは、キリスト教聖職者の立場から、人間の融和のためにはユーモアが不可欠であることを訴える小説を書き続けた。またバーミンガムの子孫に出会い、貴重な資料を提供してもらえたことも今後の研究につながる大きな成果だった。

研究成果の概要(英文)： I attempted to reveal the universal significance of George A. Birmingham and other Northern Irish novelists who are scarcely read in Japan. As for Birmingham, I verified that, through research on his correspondence with Douglas Hyde, Birmingham's early political novels had such a great impact that they might have changed the history of Ireland. After this disturbance, Birmingham turned into a humorous novelist and continued to write comic novels which show that humour is indispensable for reconciliation between human beings. That I could meet Birmingham's descendants and they offered me valuable materials were also of great use to my future study on Birmingham.

研究分野：アイルランド文学

キーワード：ユーモアの重要性 バーミンガムのアイルランドの歴史への影響 北アイルランド小説の新傾向 バーミンガムの最初の短編小説の発見 バーミンガムとウェストポート文学協会 バーミンガムの子孫との出会い ベルファストの変遷 パーナード・ショウのバーミンガム評価

## 1. 研究開始当初の背景

(1) ジョージ・A・バーミンガム(本名 ジェイムズ・オウエン・ハネイ)は、死後忘れられた存在であった。1950年代、彼の小説の価値に着目したのはダブリン大学トリニティ校のR.B.D.フレンチで、バーミンガムの娘から、彼の作品原稿、手紙、雑文、家族写真、彼に関する新聞記事等の寄贈を受け、大学図書館にPapers of J.O. Hannayとして整理保存し、後世の研究につながる道を開いた。1992年にブライアン・テイラーが、北アイルランドの政治芸批評誌『フォートナイト』5月号の中でバーミンガムの小説の意義と価値を論じたのを期に、バーミンガムの再評価が徐々に行われ始めた。1995年、テイラーは*The Life and Writings of James Owen Hannay (George A. Birmingham)*と題する研究書を出版したが、作品内容の紹介に終始しており、バーミンガムの小説本来の価値を伝えるにはやや不十分であった。しかしその後、バーミンガムに関する論文、彼を扱った研究書の数に着実に増え、バーミンガムは今日の北アイルランド問題を考える上で重要な小説家という位置づけがなされるようになった。

(2) 現代北アイルランド小説家であるグレン・パタソンに関してはアイルランドでの評価は高く、研究書・論文の中で取り上げられてきたが、日本の研究者の間では取り上げられることが少ない。また女性作家の台頭も目立ち始め、シャロン・オウエンスは大衆作家という位置づけがなされているが、ここ4、5年の間に国内外の学術論文でも取り上げられるケースが出てきた。

## 2. 研究の目的

(1) R.B.D.フレンチは、バーミンガムの初期の2冊の政治小説*The Seething Pot* (1905)と*Hyacinth* (1906)を、何が善で何が悪であるかを追究した「キリスト教道徳者の作品」と呼んだ。当科研費受給者がこれまでの研究から導き出した説は、バーミンガムの後期の数多くのユーモア小説もまた人間同士の融和を追究したキリスト教道徳者の作品であるということだ。今回の研究では、未読のバーミンガムのユーモア小説と神学書を読み、彼の教会活動を辿ることによって、バーミンガムのユーモア小説と彼のキリスト教精神の関わりをさらに明らかにし、「人間同士の対立の解決にはユーモアの精神が不可欠」というバーミンガムの持論の正当性を実証することが目的であった。

(2) パタソンは2012年の3月に19世紀のベルファストを舞台にした小説*The Mill for Grinding Old People Young*を出版し、過去の歴史という観点からベルファストを描いた。この小説は、ベルファストで事業を起こして成功した主人公を中心に、人々は、国内外の紛争に影響されながらもいかにベルファストの発展のために尽くしてきたかを描

写している。その後2014年にパタソンは、1970年代の紛争時から今日にまでベルファストで生き抜いてきた一人の女性と二人の男性を主要登場人物視した小説*The Rest Just Follows*を出版した。これらの作品によってパタソンはさらに北アイルランドの多様性、普遍性を示した。パタソンが示す北アイルランドの普遍性は何かを解明することが目的であった。オウエンスに関しては大衆作家という位置づけが定着しており、研究の対象として取り上げられることは少ないが、紛争とはかけ離れた、ベルファストに暮らす人々の人生ドラマを描き、そのグローバル性が世界中の多くの読者の心をとらえている。オウエンスの小説の普遍性を解明し、彼女の小説が学術研究に値することを実証するも目的であった。

## 3. 研究の方法

### (1) 平成25年度

当科研費受給者はかつてバーミンガムの孫に当たるアメリカ在住のジム・ハネイ氏と私信を交わしており、バーミンガムに関する貴重な情報を提供して頂いていた。惜しくも数年前に他界したが、彼の息子で、バーミンガムの本名と同じ名のジェイムズ・オウエン・ハネイ氏とコンタクトを取ることができた。ハネイ氏は平成24年9月にBBCラジオ北アイルランドがバーミンガムの*The Red Hand of Ulster* (1912)の出版百周年を記念して放送した特別番組に出演し、いかにバーミンガムがキリスト教から深い影響を受けたかについて語った。8月にテキサス州ダラスに住むハネイ氏を訪れ、今後の研究に大いに役立つ貴重な資料を提供していただいた。またテキサス大学オースティン校ではバーミンガムの演劇*General John Regan* (1913)の上演に関して、ジョージ・バーナード・ショウがバーミンガムに宛てた手紙を閲覧・調査した。同時にバーミンガムの最初の短編小説"Driven" (1893)を発見することができた。(2) 平成26年度

8月下旬にダブリング大学トリニティ校所蔵のPapers of J.O. Hannayを閲覧・調査し、演劇*General John Regan*誕生のいきさつを探った。またアイルランド国立図書館を訪れ、バーミンガムの神学書*Can I Be a Christian* (1923)を読んだ。その後、バーミンガムが1892年から1913年まで住んでいたウェストポートに行き彼にゆかりの地を訪れると同時に隣町のキャスルバーにあるメイヨー県立図書館を訪れ、*Lottie McManus, White Light and Flame* (1929)のうちのバーミンガムを含むアイルランド文芸復興に関連した作家たちの回想録を読んだ。

### (3) 平成27年度

前年同様、8月下旬にダブリング大学トリニティ校所蔵のPapers of J.O. Hannayを閲覧・調査した。また同大学図書館でバーミンガムに関する最新の博士論文 Gerard

Dineen, "Literary Exhortations: The Early Fiction of George A. Birmingham" (2010) を閲覧した。その後、メイヨー県立図書館で、過去の『メイヨーニュース』を検索し、バーミンガムが1903年にウェストポートで設立した「ウェストポート文学協会」に関する記事と、演劇 *General John Regan* のウェストポート公演(1904年2月)が巻き起こしたアイルランド演劇史上最悪の暴動に関する記事を読んだ。またベルファストでグレン・パタソンに会い、彼の最新小説 *The Rest Just Follows* (2014) に関して議論・質問をして理解を深めた。

#### 4. 研究成果

##### (1) 平成25年度

北アイルランド小説の普遍的意義を実証するにあたってジョージ・A・バーミンガムとグレン・パタソンを重点的に研究した。

バーミンガムに関しては、アメリカ・ダラス在住でバーミンガムの曾孫に当たるジェームズ・オウエン・ハネイ氏に会い、話を伺うと合字に家系図その他貴重な資料を提供いただいた。中でも、バーミンガムの息子のジェームズ・フレデリック・ウィン・ハネイ氏が書いた未発表の自叙伝は、バーミンガムに関する新事実を教えてくれると同時に、彼の子孫たちが様々な方面で活躍していることを教えてくれた。特にジェームズ・オウエン・ハネイ氏は、実業家として活躍すると同時に、バーミンガムの願望であった「宗教・人種を超えての融和」を成し遂げていることを知った。また、テキサス大学オースティン校図書館で長年探し求めていたバーミンガムの最初短編小説 "Driven" (1893) を発見した。さらに同大学ハリー・ランソムセンターで、ジョージ・バーナード・ショーがバーミンガムに宛てた手紙を調査し、彼がいかにバーミンガムを高く評価していたかを知った。

パタソンに関しては、彼の *The Mill Grinding Old People Young* (2012) は、北アイルランド問題がヨーロッパ的な意義を持つこと、北アイルランドは紛争を乗り越えて発展していることを示した小説であることを解明し、国際アイルランド研究協会日本支部、日本アイルランド協会文学研究会、熊本アイルランド協会、大分県アイルランド研究協会等で発表した。

##### (2) 平成26年度

8月下旬にダブリン大学トリニティ向野古文書研究図書館を訪れ、"The Papers of J0 Hannay" の調査・研究に当たり、バーミンガムが *General John Regan* の上演に関してロンドンの代理人、劇団主宰者と取り交わした手紙を閲覧した。このようにして前年テキサス大学オースティン校でショーがバーミンガムに宛てた手紙と合わせて *John Regan* 誕生のいきさつを探り、ショーをはじめ数多くの文学関係者がこの演劇を非常に高く評価

していたことを解明し、日本英文学会九州支部大会、『別府大学短期大学部紀要』で発表した。

現代北アイルランド小説に関しては、クレア・アランの *The First Time I Said Goodbye* (2013)、グレン・パタソンの *The Just Rest Follows* (2014) を読み、他の作品と併せて、1998年のベルファスト和平合意、北アイルランド小説は紛争を主題にしたものから日常生活を主題にしたものへと変わりつつあること、グローバルな普遍性を帯びつつあることを日本アイルランド協会学術誌『エール』に発表した。

(平成27年度)

前年度同様、8月下旬にダブリン大学トリニティ向野子文書研究図書館を訪れ、"The Papers of J0 Hannay" を閲覧し、バーミンガムの書簡、エッセイ、新聞記事等を調査・研究し、彼の小説の背景の理解に努めた。解明できたことは、ボーア戦争に出兵した弟の死や、親しかったラドワード・キプリングの息子の第一次世界大戦での戦死等、多くの悲惨や不幸に接してバーミンガムはますます「ユーモア」の重要性を説く小説を書くようになったということだった。またバーミンガムは自叙伝 *Pleasant Places* (1934) の中で、彼がウェストポートに司祭として赴任した後に設立した「ウェストポート文学協会」でのトラブルが原因でナショナリストになるきっかけを作ったと述べている。その事実を確かめるためにメイヨー県立図書館キャスルバー本館を訪れ、当時の新聞『メイヨーニュース』の調査に当たったところかなり白熱した議論であったことがうかがえた。前年度テキサス大学で発見したバーミンガムの最初の短編小説とともに、今後バーミンガムの研究を続けてゆくうえで貴重な資料となった。

ベルファストではグレン・パタソンに会い、最新作 *The Rest Just Follows* (2014) について議論・質問をした。北アイルランド紛争を克服して最善を尽くして生きてゆく一般市民を描いたこの小説は、世界中の他の国にも当てはまる普遍的意義を備えた作品であることを解明し、国際アイルランド文学協会でも口頭発表すると同時に、『別府大学短期大学部紀要』の中でも論じた。

##### (3) 3年間を通して

この3年間、ジョージ・A・バーミンガムが描く「ユーモア」を中心に研究を続けてきた。アイルランド文学とユーモアに関わりついて Vivian Mercier, *The Irish Comic Tradition* (1962) はユーモアを「人間の偉大な才能」とみなし、古今のアイルランドのユーモア文学作品を論じ「いかなる神聖な人生もアイルランド人の笑いから逃れることはできない」とアイルランド人のユーモアを賞賛している。Maureen Waters, *The Comic Irishman* (1984) は、「喜劇的なアイルランド人の魅力は死や惨事までも笑い飛ばそう

とする能力にある」と述べ、アイルランド人は人生のいかなる諸相にも笑いの種を見いだすと指摘する。Don L.F. Nilsen, *Humor in Irish Literature: A Reference Guide* (1996) は、Alec Reid の論文 (1972) を引用して、「アイルランド人は苦難を経験してきたが故に物事に対して二重の見方を発展させてきた。すなわちアイルランド人は、物事の実際の姿だけではなく物事のあるべき姿を感じ取る能力に長けている。そしてこのギャップから笑いを生み出す」とアイルランド人のユーモアの本質に言及している。バーミンガムの小説はマーシャー、ウォーターズ、ニルセンが述べるアイルランド人のユーモアの特性をすべて網羅していることが明らかになった。

バーミンガムは60冊の小説、2作の演劇、30冊のノンフィクションを書いた多作の作家である。当研究者は、今後、未読のバーミンガムの作品をすべて読むことにより、また他のアイルランド作家との比較検討により彼のユーモアの奥深さをさらに解明する計画である。

現代北アイルランド小説に関してはグレン・パタソンを中心に研究を続けてきた。パタソンはバーミンガム同様、ナショナリスト(カトリック)、ユニオニスト(プロテスタント)双方に同情を寄せ正義を追い求めている作家といえよう。そしてベルファストの多様性を描き、普遍的な意義を提示している。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### 〔雑誌論文〕(計4件)

YAHATA, Masahiko, “Universality out of Localness: What contemporary Northern Irish fiction tries to represent”, 『別府大学短期大学部紀要』第35号、査読有、2016, pp.27-36.

URL: <http://repo.beppu-u.ac.jp>

八幡 雅彦「ベルファスト和平合意お香の北アイルランド小説 最近の研究動向をふまえて」, 『日本アイルランド協会『エール』第34号、査読有、2015、pp.78-84.

八幡 雅彦「ジョージ・A・バーミンガムの喜劇『ジョン・リーガン将軍』再評価 ジョージ・バーナード・ショー殿関係を通して」, 『別府大学短期大学部紀要』第34号、査読有、2015, pp.89-99.

URL: <http://repo.beppu-u.ac.jp>

八幡 雅彦「ジョージ・A・バーミンガムの小説『宥和策』 報われた善意と、融和策が意味するもの」, 『別府大学短期大学部紀要』第33号、査読有、2014, pp.49-59.

URL: <http://repo.beppu-u.ac.jp>

#### 〔学会発表〕(計5件)

YAHATA, Masahiko, “Universality out of Localness”, A View of Contemporary Northern Irish Fiction”, 2015年10月4日、第32回国際アイルランド文学協会日本支部大会、県立広島大学

八幡 雅彦「ジョージ・A・バーミンガムとジョージ・バーナード・ショー 二つの演劇を通してみる影響関係」, 2014年10月26日、第67回日本英文学会九州支部大会、福岡女子大学

八幡 雅彦「ジョージ・A・バーミンガムとゲーリックリーグ アイルランドの歴史を揺り動かしたふたつの小説」, 2013年12月1日、日本アイルランド協会2013年度年次大会、松江市民文化センター

YAHATA, Masahiko, “Glenn Patterson, The Mill for Grinding Old People Young: Belfast Represented in a European Context”, 2013年10月12日、第30回国際アイルランド文学協会日本支部大会、京都ノートルダム女子大学

八幡 雅彦「グレン・パタソンの最新小説 *The Mill for Grinding Old People Young*」, 2013年6月2日、日本アイルランド協会文学研究会、立教大学

#### 〔図書〕(計1件)

川成 洋・編『イギリス文化事典』(丸善) 907頁のうちの八幡 雅彦「北アイルランドの小説」, pp.754-757.

#### 〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

#### 〔その他〕

ホームページ等

<http://geo-birmin.com>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

八幡 雅彦 (YAHATA, Masahiko)  
別府大学短期大学部・初等教育科・教授  
研究者番号： 50166568

研究者番号：

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：